いなほ

稲積神社社報
第47号

平成29年　大祭号

祝祭日には国旗を
掲げましょう

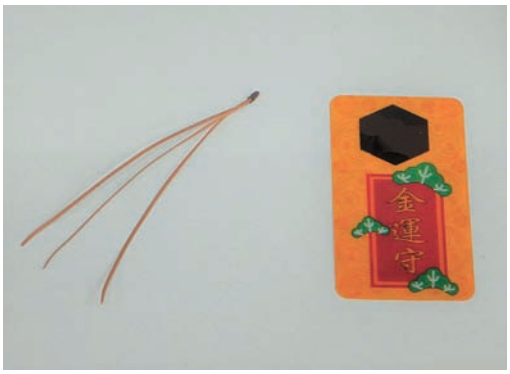
表紙の説明

伊勢神宮・出雲大社の遥拝所（はるか遠くから拝札する所）を兼ねた神輿庫並に神楽殿は伊勢神宮第六十二回式年遷宮・出雲大社平成のご遷宮事業として造営されました。

左に青く聳（そびえ）える木が「三葉の松」です。全国でも珍しく神聖な木として崇められています。

幹の姿、彫の深い樹皮の亀甲の模様に気品と風格が感じられます。

その姿から「夫婦和楽、家内安全」を象徴しています。又松葉は黄金色になって落葉しますので「金運」のご利益があるといわれ、別名「金銭松」とも呼ばれています。



三葉の松と金運守

正の木祭

宮司　根津泰昇

正ノ木祭りの時節を迎えると正に初夏の季節を感じ、過ごしやすい時節を肌で感じる時候となります。

皐月は当神社の一年に一度の例大祭正ノ木祭りの斎行月であり、家運隆昌、商売繁昌、安産祈願、初宮詣、建築に際しての祈願等の生活を営む上での御神徳をより一層高める大切な神事を営む月であります。

この例大祭は大勢の人々のご参集を頂き、斎行申し上げることによりご神徳の更なる発揚を高め、皇室の弥栄、五穀豊穣、国家安泰と崇敬者各位の家内安全・商売繁昌を二柱の大神様に申し上げ、祈る神事であります。

北条泰時の御成敗式目

神は人の敬いにより威を増し、人は神の徳を以って運を添う。

いかなる神も人間の崇敬を受けてこそ、その御威光を輝かすのであり、御神威を高めるのは人の敬の力である。しかし、その人が人としての運、人としての生命を与えられるのは、神の徳によってである。

の意味です。悠久に受継がれているのです。

この精神を過去から現在に受けつがれ、又次の世代に継承する為に粛々と毎年斎行されている大祭であります。

正ノ木祭の形態

前夜祭　五月二日十八時

明日の例大祭を斎行するに当たり、先ず先の夜に、明日の大祭の重儀が恙無く遂行出来ますよう願い、今宵より例大祭正ノ木祭りが行われますので最終日（五日）までご神徳賜りますよう願う神事です。

例大祭　三日十時

二柱（宇迦御魂大神・大宮能売大神）のご神徳の高揚を高め、高められたご神徳を崇敬者・参詣者の多くにお頒ちをし、皇室の弥栄・国家安泰・五穀豊穣を願い又崇敬者・崇敬会員、祈願提灯献納者の日々の日常生活の御栄えを乞い願う神事であり又神輿渡行（みこしが練り歩く）の前に御本殿から神輿に御神魂（おみたま）を遷す遷御の儀が斎行され、夕刻には神輿から御本殿の元の御座にお帰りになる儀式がおこなわれ、例大祭の神事が納められます。

二之祭　四日九時

三之祭　五日九時

例祭日から二日目、三日目の意味で例大祭二日目、三日目には大神様に献納する神賑行事は各氏のご奉納でこのような行事を献納いたしますので二日目、三日目も大神様のご神徳を授かり崇敬者・参詣者に大きな御力をお授け下さいとの神事です。

終了祭　五日十七時

四日間に渡る例大祭も多くの諸団体の方々のご協力を賜り、今此に納めることが出来ました。係わりました多くの団体・企業・個人に御神徳をお授け下さい。又この先一年見守り願いたいと神恩感謝を捧げる神事です。

この様な正ノ木祭は江戸時代から始まり、戦時中は中断したものの永い年月多くの協力者に支えられ今日に致っております。

近年道徳心の無い人等により、楽しい祭りに油を注がれましたことは痛恨の極みであります。

本来の祭りの精神は、神様を拝み、祈りを捧げる純粋な姿であり、日本独特の文化であります。この精神を未来に繋げる為に現在を多くの人達と共に歩んで参りたいと存じます。

正の木祭りを通し、崇敬者、関係者各位のご神縁がお授りになりますこと、ご祈念申し上げております。

正の木祭実行委員長
藤本　浩

事典によると祭りとは、神を迎え供献待座して神と人のつながりを深める宗教行事。

日本の祭は稲作儀礼を中心とし、その農耕を始めるに先立って行われる祈年祭、収穫を終えて田の神を再び山に送る秋の感謝祭が主となるが、まさに正の木祭りは前者ということになります。

この正の木さんの名で親しまれているお祭りは「大神さん」「厄地蔵さん」に並ぶ甲府三大祭りのひとつで、江戸時代から続くお祭り。

毎年五月二日に前夜祭、三日例大祭、神輿渡御、四日二之祭、五日三之祭、成就祭と四日間にわたる祭典で全国的にみても期間の長い祭りで県内はもとより近県からも多くの人達が訪れるお祭りであります。

五月二日は立春から数えて八十八日目にあたり、かつて農家ではいっせいに種まきや苗の植つけにとりかかったのですが今ではその種や苗を買いにくる人も減り、植木や花が中心となり、正の木祭りも時代の変遷により様変わりしてきました。

本年も例年どおり正の木祭りでは二百店以上の屋台を出店させる計画で着々とその準備をしているところであります。また各種催し物を計画し祭りを盛り上げてまいりたいと思っております。

祭りは多くの一般市民が楽しくそして安全に無事に行われることが最大の目的でありますが、昨年は五月三日、一昨年は五月五日少年等による不法事案が発生し新聞紙上に報道されるような不祥事が発生してしまいました。誠に残念でなりません。

実行委員会としましても稲積神社とその外郭団体、太田町を中心とした地域住民、甲府商工会議所をはじめとした各種機関、団体等の協力をいただきながら多くの人達が安全で安心したお祭りが楽しめるような正の木祭りにしたいと思っております。

太田町東部青遊会
宮川　洋

五月の爽やかな風が吹いてくると、正の木さんがやって来ます。稲積神社の地元である太田町東部では、毎年五月三日に青遊会が中心となって子ども神輿を繰り出します。

青遊会には、現在、町内の四十代からシニアまでの男衆十八名が所属していますが、二十五年前、自分達の子どもらにも正の木祭りの思い出を残してあげたいと、それまで途絶えていた子ども神輿を復活いたしました。

私たちが子どもの頃は、町内にも沢山の子どもがいて、大人神輿と同様に、子ども神輿も盛大に行われていました。当時の子ども神輿は大きくて重く、中学生が中心に担ぎましたので、小学生だと背が足らず、ぶら下がった様になり、怒られた思い出があります。そんな思い出話も、一緒に参加したからこそ、共通の話題として盛り上がります。

近年は、町内の子どもの数は減少しましたが、回覧板でお知らせし、太田町北部、一蓮寺幼稚園などの協力もあって、子どもと付き添いの大人を合わせると、百五十人を超える皆さんにご参加をいただいています。

祭り当日の朝は、出発式から始まります。「エイ！エイ！オー！」の掛け声で気持ちを一つにすると、子ども神輿と子ども山車の出発です。

皆の目が輝きます。神輿を担ぐ肩に力が入り、山車を引っ張る綱をかわいい手が力一杯握り締めます。この時が、最もわくわくする瞬間です。

今年も、多くの方々のご協力と地域の繋がりを感じながら、江戸時代から連綿と受け継がれてきた正の木さんに参加できる喜びと誇りをもって子ども神輿は、賑やかに出発します。

我家の神棚祭り

㈱オオキ　会長　大木勝志

七十年来、我が家と会社の神様との関係は「宗教法人徳光教」でありました。

徳光教は、大正元年金田徳光によって創始され、人の幸せを導く道理の解明と転心の動機を与え導き一〇〇年強の歴史を重ねた宗教（神教）であります。

終戦後間もない時のある出来事により「ワラをもつかむ想い」で両親が導かれた徳光教信仰。その後の両親の信念にも似た熱い信仰心、それは「人知を超越した神の存在を知り　祈りを通じて心身を清め　生きることの大切さ」でありました。私が先代と徳光教で教えていただいたことは、人は「自然の中に生かされていること」。人は「自分に執着してはいけないこと」。人は「誠の心を持たなくてはいけないこと」ということであり、この教えが家庭においても会社においても常に物事の真ん中にあり、目に見えぬ多くの神のご加護をいただいてまいりました。

しかし、時の流れの中でこの徳光教は三年前教団を閉めることになり、私どもにとりまして大変途方にくれることであり、社長交代の事業継承の時期と重なり、併せて、先々自己の人生の始末という大切な使命のために新たな信仰の礎が必要でありました。

そのような時を同じくした折、根津宮司様とはロータリークラブでご一緒させていただいており、献木祭には毎年参拝させていただいておりました等々の関係で、自宅建築のための地鎮祭を稲積神社にお願いいたしました。その大きなめぐりあわせにより、自宅と会社の神殿に稲積神社を守り神としてお祭りするご指導をいただきました。自宅の神殿は、天照大神・稲積神社・大木家の御霊を祭り、会社は、天照大神・稲積神社・出雲大社の神を奉斎し、毎朝お米お塩お水を供え、家族と社員そして会社の安寧とお客様の繁栄を祈願すると共に、四月一日の創業奉告祭、十二月二十三日の大祓い祭りの執行をしていただき、月始めの月始祭への参拝を常としている新たな稲積神社との信仰の日々であります。

これからも、尊い神様たちと稲積神社とのご縁を大切に、信仰深かった両親を想いつつ、家も企業も未来永劫の信仰となるよう精進いたします。

新年祈願例祭を挙行して

甲府南ロータリークラブ　会長　深澤一郎

甲府南ロータリークラブでは、平成二十三年から、毎年一月の上旬に、稲積神社において、新年祈願例祭を行っています。

ロータリークラブとは、職業を通して社会に奉仕しようとする人々が集まり、会員相互の親睦を深めながら、楽しく、そして無理なく、知見、倫理、職業のスキルを研鑽して、その質を高め、自己の職業が社会の要請に十分に応えられるよう努力して社会に奉仕し、更には、職業以外においても、社会に奉仕することができる活動がないかを模索し、これを実行しようとしている団体であります。

今、世界的に行っている奉仕活動としては、ポリオ（小児麻痺）の撲滅活動があり、あと少しで、世界からポリオの被害をなくすことができるとこまで来ています。

また、甲府南ロータリークラブでは、甲府南ロータリークラブ（山梨大の学生によって構成）、甲府商業インターアクトクラブ（甲府商業の生徒によって構成）、日本ボーイスカウト甲府第四団、ガールスカウト山梨県第二団の青少年のメンバーと一緒に、舞鶴城内での花壇の植栽・管理事業、愛宕山での植樹・管理事業を展開しています。

ロータリークラブは、世界に三万五千二百六十三クラブあり、日本には二千二百七十二クラブ、山梨には二十五クラブあります。甲府南ロータリークラブはこの一つのクラブで、昭和三十四年に誕生し、現在会員は七十一名おります。

稲積神社の根津泰昇宮司も甲府南ロータリークラブの会員で、この関係から、毎年、新年祈願例会を稲積神社にて行っております。

新年祈願例祭において、一年間の無事を祈願していただき、そして、根津宮司から頂戴するご講話を聴くことは、私たちの知見・倫理等を研鑽する大きな糧であり、そしてまた、私たちの年に一度の楽しみでもあります。甲府南ロータリークラブが、今後、何十年、何百年、何千年と続くことを確信しておりますが、この稲積神社の新年祈願例会も、甲府南ロータリークラブが存続する限り継続して行われるものと信じております。

恵方参りの旅行

千塚八幡神社　奉賛会会長　小野俊之

二月二十六日、二十七日、稲積神社主催、千塚八幡神社、恵比寿神社協賛の恵方参りの旅行に参加させて頂きました。今年の恵方は、北北西、長野県東信濃塩田平方面に向かい参加者八十名。朝から良い天気、皆様気分も晴れやかな顔、車内の中は話しもはずみ、いよいよ午前の目的地、生島足島神社に到着。正式参拝の後、宮司様から生島足島神社の歴史を聞き、この神社には武田信玄が川中島決戦を前に必勝を祈った願文や、家臣団、二百三十余名に忠誠を誓わせた起請文など古文書として残り、国の重要文化財指定になっている話しを聞いて感動しました。御神酒を頂き、拝殿と社殿の見学、昼食後、真田ゆかりの地へ。四百有余年の歴史を誇る上田城を見学。上田城は関ヶ原合戦後に破却れ、その後真田氏からはじまり、築城四百有余年上田城は今もなお訪れる人々を魅了しています。その後上田城跡、公園を散策。夜の宿草津温泉は、ホテル高松。宴会も盛り上がって皆様楽しく過ごされてよかったと思います。翌二十七日今日も朝から天気も良く、バスの中から見る浅間山の煙りを見ながら世界遺産の富岡製糸場へ到着。解説員に依る富岡製糸場の歴史、又一一五年間操業を続けた話しを聞き、感動しました。なお千塚八幡神社には養蚕家達が蚕影神を祀ったもので明治四十五年一月建立された碑が神社東側に建てあります。一九〇〇年代に入って養蚕は最盛期を迎え養蚕大明神の風潮がついに蚕神の講社にまで発展したものと思われる千塚にお越しの節は是非見て下さい。昼食後、コンニャクパークへ移動してのコンニャクの試食はとてもおいしかったです。そして工場の見学・工場内はとても整理整頓されていて良かったと思います。二日間皆様と色々とお話しが出来て楽しい恵方参りの旅行でした。

立春を過ぎて新たな年の初めに恵方参りの旅に参加させて頂き有りがたく思っています。宮司様をはじめ皆様には心から感謝申し上げます。

靖國神社正式参拝

稲積睦会　高山政宏

桜の花が咲き始め、いよいよ春本番の良き日、三月二十九日（水）山梨県神社庁、山梨県神道政治連盟主催の靖國神社正式参拝に参加させて頂きました。

まだ朝晩の冷え込む中、朝七時に遊亀公園入口に集合、一号車に乗車し昭和インターより談合坂ＳＡ（山梨県各地区より集合）いざ靖國神社へ。

車内での挨拶を山梨県神道政治連盟副本部長　小尾武総代会長、秋山甲府支部長に頂き車中和やかに向かいました。

車内では丹沢正臣総代より、奥様のお兄様が戦艦武蔵に乗船していて靖國の地に祀られている話をいただき、また浅利様にも甲府空襲での惨劇を聞き、われわれ戦争を知らない者として感慨深いまた繰り返してはならないと実感いたしました。

東京都内は前日に開花宣言が出たばかりでしたが、暖かさが違うのか満開とはいかないが綺麗に咲いていました。

靖國神社に到着すると県選出の国会議員の先生方に入口でお迎えを頂き、神道政治連盟本部長の挨拶、国会議員の先生方よりの挨拶、靖國神社宮司様からも挨拶を頂戴いたしました。

靖國神社は桜の名所、今から桜本番、既に散った桜も数多いとの事でした。

宮川典子衆議院議員から議会の為、皆様の前に参拝させて頂いた旨の話の中に靖國参拝は何回参拝しても背筋が伸び、常に考えさせられると聞き、私も同じ気持ちで参拝していると実感しつつ参拝致しました。

今回の参拝でも靖國に祀られている英霊に感謝をし、戦争を決して繰り返してはいけない、未来の日本の為に思いを深くいたしました。

参拝後遊就館、桜見学をし恵比須ガーデンプレイスのエビスビールにて昼食を済ませ恵比須を散策し帰路へ。

帰りの車中でも和やかに、幸せを感じる一日でもあり、また来年の靖國参拝を皆様と参加しようと約束し、私からの報告とさせて頂きます。

有難う御座いました。

敬神婦人会会長丹澤起恵子様の兄の英霊（横山初太郎命）

崇敬会入会のご案内

崇敬会は、衣・食・住の生活の守護神である稲積神社の御神威をいただき、生活の安定を共に喜び、また日本人の道として最も大切な『崇神崇祖』（父母を尊び、祖先を敬い、子孫を愛する心）の精神を培い、日々の発展と家運隆昌を願うと共に、稲積神社の護持発展に寄与することを目的とする崇敬者の集まりです。

昭和五十七年に発足され、一時途切れましたが、平成十六年に再興いたしました。現在会員数は二百三十名程です。

一年に一度斎行される崇敬者大祭は会員の皆様が参列され、祭事後は大会、講演会、懇親会と続き、講演会講師には地元出身のオリンピック出場逸見選手、山梨学院陸上競技部上田監督、崇敬会望月幸明名誉会員の方々にお願いし、見聞を深め、大神様のご神徳を戴く一日となります。また、靖國神社、箭弓稲荷神社、鎮守氷川神社など数年に一度は一日参拝研修旅行を計画し、各神社のご神徳と会員相互の結びを繋ぐとても有意義な研修となりました。これからも様々な会を計画する予定であります。崇敬会の皆様には是非ご参加いただきたいと思います。

会員皆様の日々のご安泰を毎朝の日供祭にてご祈願し、誕生祭には神札を授与、会員用の朱印帳を会員神納書として交付される崇敬会へのご入会を心よりお待ち申し上げます。

年会費

特別会員	二万円
正会員	一万円
会員	五千円

平成28年崇敬会大祭（婦人会創立20年を迎えて）

平成23年崇敬会大祭記念事業 箭弓稲荷神社正式参拝

神道のいろは

参拝の際に鳴らす鈴の意味について

多くの神社には、拝殿の中央、ちょうど賽銭箱の真上あたりに、銅や真鍮製の大きな鈴が吊られており、この鈴に添えて麻縄や、紅白・五色の布などを垂らして、参拝者はこれを振り動かして鈴を鳴らし、お参りをします。

神社によっては神仏習合の影響により、鈴の代わりに鰐口が設けられている場合もあります。

社頭に設けられた鈴は、その清々しい音色で参拝者を敬虔な気持ちにするとともに参拝者を祓い清め、神霊の発動を願うものと考えられています。

また、巫女が神楽舞を舞う際に用いる神楽鈴も、社頭の鈴と同様の意味によるものです。古くは巫女が神楽を舞うことにより神憑りして人々に神の意志を伝えており、このために必要なものとされていました。

今日では巫女による神楽舞が優雅な形に定められ、神憑りというより神慮を慰めるものとしての意味合いが強くなり、神楽舞の後に参拝者に対しておこなわれる鈴振り行事は、祓い清めの意味を有するものということができます。このほか、御守などの授与品に鈴が用いられるのは、魔除けや厄除け開運のためともいわれています。

『古語拾遺』には、天の岩屋にお隠れになられた天照大御神の心をひくために、天鈿女命が鈴を付けた矛を持って舞ったことが記され、宮中では天皇陛下が天照大御神を御親拝なされる際に、女性で祭祀を司る内掌典が、御鈴を鳴らして奉仕することがあるように、神事における鈴振りは今日まで重要な意味を持ってきました。

江戸時代の国学者である本居宣長は自らの号を「鈴屋」と称して、「鈴の屋とは、三十六の小鈴を、赤き緒にぬきたれて、柱などにかけおきて、物むつかしきおりおり引なして、それが音をきけば、ここちもすがすがしくおもほゆ、その鈴の歌はとこのべにわがかけて、いにしへしぬぶ鈴が音のさやさや」とその命名の意味を述べていますが、その美しき音色は神人共に和ませるものということができます。

金品をお供えするときの表書きの書き方

御神前に金銭や食物、お酒などをお供えする際に記す表書きには幾つかの書き方があり、「御神前」「御供」「玉串料」「御榊料」「初穂料」等の書き方が一般的です。「御神前」「御供」という表書きは説明するまでもありませんが、「玉串料」「御榊料」とは玉串や榊の代わりに、また「初穂料」とはその年に初めて収穫されたお米の代わりに、それぞれお供えする料であることを意味しています。

このほか「上」や「奉献」「奉納」と書かれる場合もあります。「上」はよく神様や目上の方に対する御礼の際に表書きに用いられる語です。

「上」はお神礼・お守などの授与品や撤下神饌を入れる袋の表書きにも用いられていますが、この場合、撤下品は神前にお供えする際、「上」と記すのであって「上」とはあくまでもお供えをする神様に対して用いられている語ということができます。一方、お神礼やお守が御心霊の御加護を戴く尊重なものなので丁寧さを表現するために「上」を表書きにしていると考えることもできます。

このほか、神式の葬儀のお供えに関しては「御霊前」や「玉串料」「御榊料」といった表書きが用いられます。市販の不祝儀袋には「御霊前」とあっても、蓮の花の文様が付いている場合がありますが、これは仏式用のものなので注意して下さい。

表書きには、神事に用いられる以外にも冠婚例祭を通じてさまざまな書き方があり、自らの気持ちを伝える意味でも大切なものということができます。

神社新報社発行「神道いろは」より抜粋

安産祈願の歴史

安産祈願は神様に参詣し懐妊の報告と無事出産を祈願する行事です。

戌の日が選ばれるのは犬が安産であったため犬にあやかって戌の日に祈願するようになりました。近年はご都合の良い日を吉日と定めお参りなさる方も多くなりました。

平成29年　戌（いぬ）の日カレンダー

5月	11日（木）先勝	23日（火）先勝	
6月	4日（日）友引	16日（金）友引	28日（水）先負
7月	10日（月）先負	22日（土）先負	
8月	3日（木）大安	15日（火）大安	27日（日）赤口
9月	8日（金）赤口	20日（水）友引	
10月	2日（月）友引	14日（土）友引	26日（木）先負
11月	7日（火）先負	19日（日）大安	
12月	1日（金）大安	13日（水）大安	25日（月）赤口

節分祭

節分祭が今年も盛大なうちに斎行されました。当神社では毎年午後五時に社殿にて節分祭の神事を斎行し午後五時三十分より社殿西側で豆撒きを行っております。

節分とは立春の前日に当たりこの日を境に冬が終わり春を迎える節目の日を言います。節分に豆撒きを行うのは古来より日本では穀物には食霊が宿るとされ豆を投げて魔を滅する（魔滅＝まめ）として行われてきました。豆撒きを行うことで新たな春（新年）を迎え身も心も清々しく過ごすための大事な行事です。

針供養

古来より日本では十二月八日と二月八日は事八日と呼ばれていた。十二月八日を事納め二月八日を事始めとよび、事納めには農耕を終え事始めには始めるとされていた。この両日はつつしみをもって過ごす日とされ、この日は針仕事を休むべきと考えられていた。そして使えなくなった針を神社に納める、あるいは豆腐や蒟蒻のように柔らかいものに刺したりすることで供養し、裁縫の上達を祈った。

当社でも毎年二月八日に境内の針供養塔の前にて神事を執り行っております。

祈年祭

祈年祭は春の耕作始めにあたり、五穀豊穣を祈るお祭りで、「としごいのまつり」とも呼ばれます。「とし」とは稲の美称であり、「こい」は祈りや願いで、お米を始めとする五穀の豊かな稔りを祈ることを意味します。農耕が生活のすべてであった時代、豊作を祈ることは国の安泰、国民の繁栄を祈ることに他なりませんでした。その為、祈年祭は年中行事の中でも重要なお祭りです。

稲積神社では毎年二月の十七日に大祭式にて斎行しております。

稲積神社甲府伊勢講

第52回「飛騨國　櫻山八幡宮」参拝と錦秋の奥飛騨温泉郷に泊まる旅

日　程　平成二十九年十月十五日（日）～十六日（月）

会　費　一泊二日　三五、〇〇〇円

月日曜	行　程	食事
10／15（日）	甲府最終出発場所（6:00頃）===＜中央道＞===高山グリーンホテル［昼食］（11:30［ランチバイキング（60分）］12:30）===	朝－ 昼○ 夕○
	===飛騨國（13:00）　櫻山八幡宮（【正式参拝】ユネスコ無形文化財）・高山祭屋台会館（14:30）===古い町並み散策（14:40）===飛騨高山（15:40）===新穂高温泉（17:00頃）（泊）	
10／16（月）	宿（9:45）・・・徒歩（10:00）新穂高温泉駅 +++ 第1ロープウェイ（10:22）新穂高ロープウェイ +++ 鍋平高原駅（10:04）・・・徒歩（10:15）しらかば平駅 ++	朝○ 昼○ 夕－
	+++ 第2ロープウェイ 新穂高ロープウェイ +++西穂高口駅（標高2,156m）・・・展望台雲上散策・・・西穂高口駅（11:45）++	
	+++ 第2ロープウェイ 新穂高ロープウェイ・・・しらかば平駅（11:52）===平湯（12:00）　あんき屋［昼食］（12:45）===（郷土料理　けいちゃん焼き）（13:30）	
	===安房峠道路 ===＜中央道＞===甲府最初の降車場所（17:00頃）	

外郭団体活動報告

崇敬青年会活動報告

会長　大澤慶暢

現在崇敬青年会は、男性十五名、女性一名の計十六名で活動をしており、毎月基本二十一日に定例会と無尽会を行います。

まず四月は、「正ノ木祭り」の準備を二十九日に行い、お祭りの協賛金集めも並行して行っています。

五月は、二日の晩から六日の早朝の後片付けまで、出来る範囲でお手伝いをします。特に三日の夕方からのイベントは、青年会主体で行います。

六月は、三十日に行われる「夏越大祓祭」へ参加をして、その後定例無尽会を行います。

七月もしくは八月には、各県持ち回りで「全国氏子崇敬青年会の全国大会」があり毎年参加をしております。

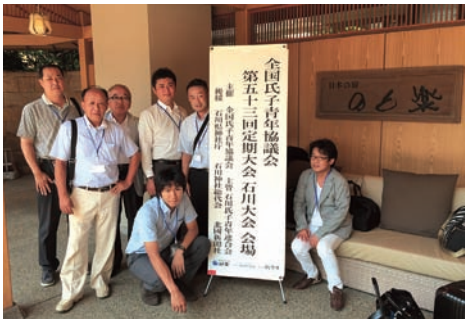
九月は、稲積神社崇敬者大会に参加します。

十二月は、第一日曜日の朝に行われる「稲積神社境内の落ち葉ひろい」に参加し、夕方から行われる「稲積神社関係者合同納会」を主幹します。この時の行われるビンゴ大会の景品集めや買い出しにいつも色々と悩まされます。

最後は三十一日の甘酒作りと、一日の配布です。甘酒は酒粕を二十キロ使用し約五百人分を作り早朝より参拝者に配布します。

以上が青年会の一年間の活動です。現在青年会の会員が少ないので、会員を募集しています。是非皆様のお知り合いをご紹介していただければと思います。

第50回全国大会復興支援大会（鹽竈神社前にて）



第53回全国大会

いなづみ会

会長　深沢智也

当会「いなづみ会」は稲積神社の外郭団体として昨年で十周年を迎えることが出来ました。発足前は同級生四名ほどで月に一回の無尽を行う程度でしたが、同級生でもある根津禰宜と再会をして酒を酌み交わし、神社の仕事や活動内容を聞き、せっかくなら各人共通した目的を持って稲積神社、根津禰宜を応援しようということが外郭団体参加のきっかけでした。活動を行う中で様々の出会いがあり、現在、同世代を中心に会員数は九名となっております。（個人的なことではありますが、私は神社での奉仕活動を通して家内を紹介頂き、知り合って、結婚することが出来ました。友の会村松様ありがとうございました！）

いなづみ会の主な活動として、大晦日から新年に掛けての青年部の方々が作ってくださった甘酒配り、新年はお礼のお炊き上げ、正の木祭りでは駐車場整理係、御田植祭後のバーベキュー及びお子さん向けスイカ割りの仕切など、祭事関連の奉仕活動を中心に行っております。

そして、過去二回、伊勢神宮のお木曳き、お白石持にも参加させて頂き、旅行としても楽しみながら信仰と会としての結束、メンバーとのコミュニケーションを深めることが出来ました。

いなづみ会は神社への奉仕活動を通じて、各人の成長とともに神様のご神徳を預かれるように、また何より諸行事を有意義に取り組む姿勢で取り組んで行きたいと思っております。

毎年の奉仕活動を通して歳を重ねてはおりますが、至らない部分が多々あると思います。今後とも宮司さん、総代さん、各外郭団体の先輩方のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

宮司を囲んでのいなづみ会員

大晦日の甘酒奉仕